

開催地名	岐阜県笠松町
開催日時	令和5年8月3日(木) 18:00～19:30
開催場所	笠松町中央公民館大ホール
語り部	蔵原 正敏 (熊本県宇城市)
参加者	笠松町役場職員、社会福祉協議会、消防関係機関 101名
開催経緯	当町では、昭和51年に発生した水害以降、被災経験がなく、職員も災害対応の知識や経験及び初動体制等に対する危機感が不足していることが懸念されるため、語り部の講演会を開催し、職員の防災意識を高めたい。
内容	<p>(1) はじめに(宇城市の災害)</p> <p>台風による暴雨災害・高潮災害、豪雨による土砂災害・浸水災害、ある程度予想が出来る災害については備えが出来ていたが、地震に関してはあまり備えが出来ていなく、また実際の現場でも失敗したことがあった。失敗して学んだことが大きい。反省点を踏まえ、伝えていきたい。</p> <p>(2) 平成28年熊本地震</p> <p>宇城市は震度6弱。また震度4以上強い揺れの回数は熊本の中で一番多かった。熊本地震の特徴として、揺れが長く続き、被害がボディブローの様に襲ってきた。</p> <p>初動対応として職員は殆どが登庁。担当の部署だけでなく、他部署をまたいで、災害対策を行っていた為、全職員に防災の意識が高かったと思われる。</p> <p>避難所開設は、まずは11カ所で開設。車中泊や軒先避難に関しては、残念ながら把握出来ていない(その余力がなかった)。</p> <p>避難所運営に関しては物資がすぐになくなり、12,000食のクラッカーを用意していたが、翌日にはなくなってしまった。幸いにも全国規模の製パン工場があったので、菓子パンを調達することが出来た。ただ月日が経つと、国からのプッシュ型もあり、余剰も出てくる。またニーズに合わないものも届く。個人からの物資も嬉しい限りだが、仕分け対応する労力も必要になる。最後には個人物資はお断りし、企業・自治体・国に限定した。また物資の届く時間で夜中に届く事もあり、搬入作業など、職員が手薄でかなり苦労した。ローラーコンベア(自動ではないもの)や、手で押すリフトなどを借りて対応したところ、かなり効率化が出来た。初めから借りておけば良かったと実感した。</p> <p>地域での活動では、消防団の方に大変お世話になった。昼は救護物資の搬入、夜は警備。また停電した後の通電、火災予防等を行っていただいた。</p> <p>自衛隊にも大変お世話になり、入浴施設を投与いただいて、市民には大好評だった。また自衛隊の炊き出しは300食想定なので、避難所利用者が減ってきてからでないと対応出来ない。ただ栄養面も考えて、炊き出しは重要なので、まずは菓子パン等で繋いで乗り切った。</p> <p>物資配布と共に苦労したのが罹災証明発行だった。一次調査で納得いかず、二次調査</p>

になるケースも多い。また発行するのに1時間で3件、一次調査も1時間3件、二次調査は1日3件しか対応出来なかった。発行初日は宇城市役所の車収容台数は、約300台。朝一で既に、約400名の行列。想定を甘く設定していたため、市民の皆様に迷惑が掛かった。その後、受付番号毎に発行予定時間を示し、再来庁いただく流れに変え、スムーズに回り始めた。また住家被害認定も全てを見ることは難しい。地区内ローリング調査などで対応していった。

(3) 課題

受援体制が整っておらず、マニュアルがうまく対応出来ていなかった。平時から色々な事を想定し、取り組んでいくことが大切である。またマンパワーが必要な時は民間と連携する事も必要。そして長期戦のため職員がちゃんと休むことは本当に大切である。

地震になると災害対策の規模が本当に違う。専門機関や経験した自治体と連携をとり、進めていくべきである。

(4) まとめ

折角助かった命を2次災害で亡くす事がないようにしなければならない。防災無線などを使い、気候なども織り交ぜて、細かな情報を伝えていった。エコノミークラス症候群を予防するため、時報もかねてラジオ体操なども実施もしてみた。また普段から安否確認訓練などで要支援者の面会を行っていたことも良かった。

失敗して学んだことの方が大きい。ただ良かった点もある。良い点・悪い点を共有し、今後の防災対策に繋げて欲しい。



開催地より

熊本地震発災時の具体的な業務や反省点、他機関との連携についてなど参考になるお話を聞くことができた。今後は、他課や他機関との連携の構築や見直し、防災訓練などを行い、防災力の向上につなげていきたい。